

② 合理的配慮の例（音楽会バージョン）

意思の
表明



リコーダーが難しい。でも「音楽発表会にはリコーダーで出たい」と希望している。どうしたらいいの？

背 景
実態把握

Aさんの場合（小3：通常の学級）

・左手のまひがあり、指で押さえられない穴がある。立位だと体が安定せず吹きにくく危険である。

Bさんの場合（小3：通常の学級）

・楽譜の情報を読み取り、指使いを思い出して吹くことが難しい。

Cさんの場合（小3：通常の学級）

・指使いや吐く息の調整など同時に2つ以上のことをするのが難しい。リズム感がある。

学校の
基礎的
環境整備

- ・知的障がい特別支援学級があり、その学級担任が特別支援教育コーディネーターを担当している。基(2)
- ・必要な児童に個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成している。基(3)
- ・特別支援教育支援員がいる。基(6)

検討
決定
提供

メンバー 本人・保護者・学級担任・音楽専科の教員で相談・協議

合理的配慮の内容

- ・本人用の椅子を用意し、座って演奏できるようにする。③-1
- ・押さえる力が弱くて押さえられない穴は、魚の目シールを貼って押さえやすくする。①-1-1
- ・音楽専科の教員が、出せる音と出せない音を調べて、確実に出せる音を吹くようにさせる。①-1-2

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育支援員・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

合理的配慮の内容

- ・特別支援学級の児童が使用している、押さえる穴の図がそのまま楽譜になったものを使用する。①-2-1
- ・特別支援教育支援員が個別に指導する。①-1-1
- ・吹けるようになった音を学級担任が確認し、本人と一緒に達成表にシールを貼る。①-2-3

メンバー 学年部の教員で協議（昨年度の音楽会を参考にしながら、使用する楽器について検討した。）

→本人・保護者・学級担任で相談（昨年度の打楽器の演奏のVTRを見てもらったり、リコーダー以外の楽器もあることを知らせたりした。→本人にいろいろな打楽器を試させた。）

→本人・保護者・学級担任・学年主任で相談・協議

合理的配慮の内容

- ・木琴を使うこととし、使う鍵盤以外を外して指導する。①-1-2

音楽会に楽しく参加できた！ 苦手意識もなくなったよ！

評価
見直し

- ・個別的教育支援計画・個別の指導計画に記入、活用する。
- ・定期的な評価をする。
- ・見直しを随時行う。

- ・魚の目シールを貼ることで音が出しやすかった。
- ・今後、出せる音を増やしていく。

- ・押さえる穴の図がそのまま楽譜になったものを見ながら、演奏することができた。
- ・個別に指導をしなくても個別に楽譜を用意すると演奏できる。

- ・木琴で本人は楽しく音楽会に参加できた。
- ・来年度の音楽会に向けて、週1回昼休みに特別支援教育支援員とリコーダーの練習をする。